

平成19年第1回景況調査結果について

2007年2月28日
三重県農水商工部
(財)三重県産業支援センター

調査要領

1. 調査時点：2007年1月(中旬)
2. 調査対象：県内全域の企業1,000社
3. 調査方法：FAX及びインターネットによるアンケート調査
4. 回答状況：350社(有効回答率 35.0%)
5. 調査企業の産業、従業員数、地域別(生活創造圏別)内訳

【産業別】

【従業員規模別】

	建設業	製造業	運輸・ 通信業	卸・ 小売業	金融・ 保険業	サービ ス業	合計	~29人	30~ 99人	100 人~	合計
対象企業数	86	287	65	267	22	273	1,000	527	219	254	1,000
回答企業数	40	106	24	76	17	87	350	157	91	102	350
構成比(%)	11.4	30.3	6.9	21.7	4.9	24.9	100.0	44.9	26.0	29.1	100.0

【生活創造圏別】

	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	伊賀	尾鷲	熊野	合計
対象企業数	111	224	121	152	119	128	90	30	25	1,000
回答企業数	37	84	35	60	46	36	30	12	10	350
構成比(%)	10.6	24.0	10.0	17.1	13.1	10.3	8.6	3.4	2.9	100.0

(注) 構成比等(%)については、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

- (注) 桑名・員弁生活創造圏(桑名市・いなべ市・木曾岬町・東員町)
 四日市生活創造圏(四日市市・菰野町・朝日町・川越町)
 鈴鹿・亀山生活創造圏(鈴鹿市・亀山市)
 津・久居生活創造圏(津市)
 松阪・紀勢生活創造圏(松阪市・多気町・明和町・大台町・大紀町)
 伊勢志摩生活創造圏(伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・南伊勢町・度会町)
 伊賀生活創造圏(伊賀市・名張市)
 尾鷲生活創造圏(尾鷲市・紀北町)
 熊野生活創造圏(熊野市・御浜町・紀宝町)

平成19年2月28日現在

II 概要 (主な調査項目のDI値の推移)

(1) 景況感

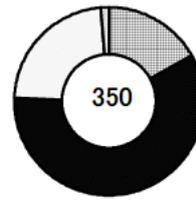
今期の県内景気は「良い」16.9%、「ふつう」58.6%、「悪い」23.1%となっております。

景況感DI (前期比) は全産業でプラス3.2ポイントと前回より3.7ポイント悪化しました。

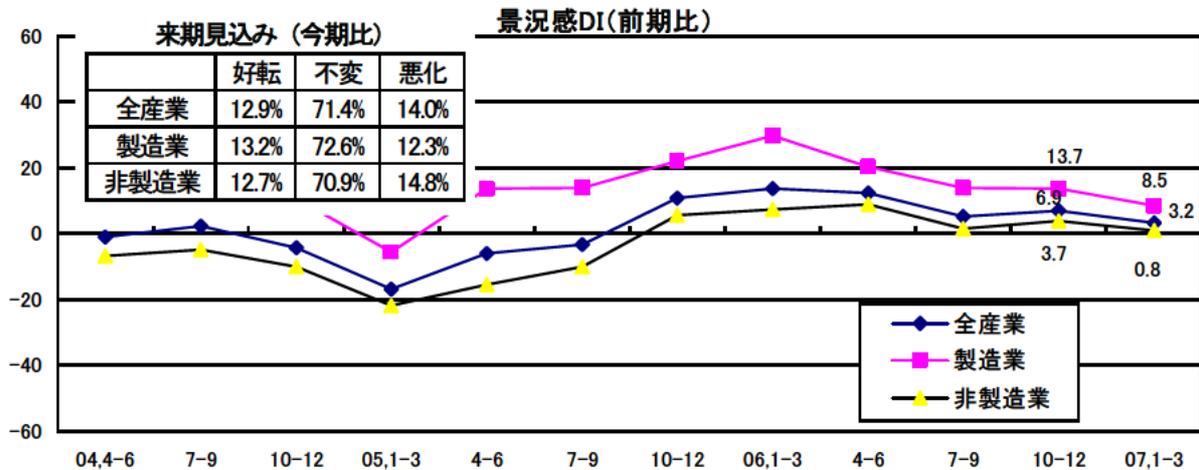
また、来期の見込み (今期比) は、全産業、非製造業で「悪化」が「好転」を上回っています。

製造業は「好転」が「悪化」を上回っております。

今期の景況感



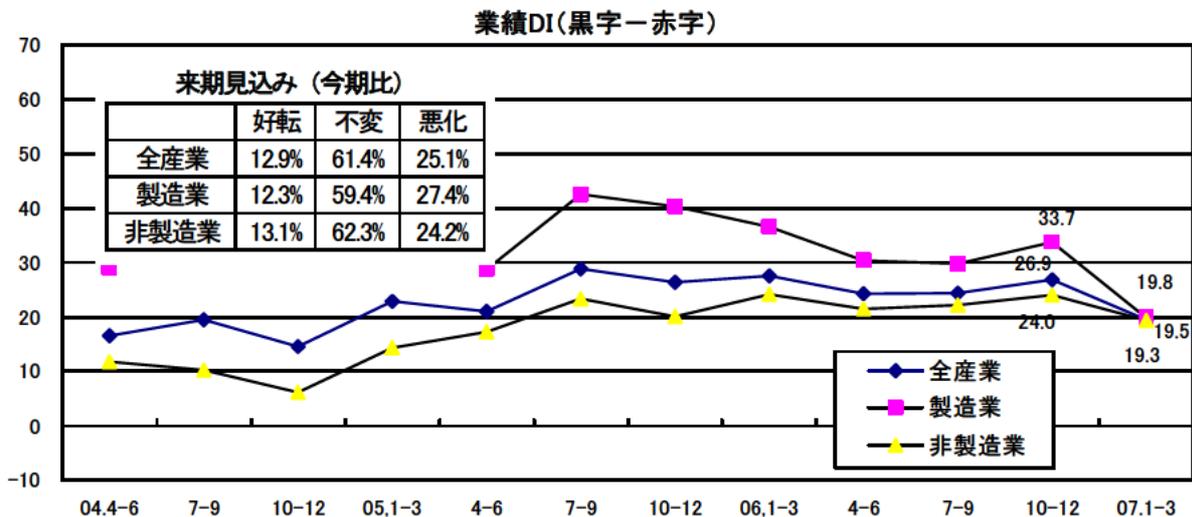
■ 良い	16.9%
■ ふつう	58.6%
□ 悪い	23.1%
□ 無回答	1.4%



景況感DI = 前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値

(2) 業績

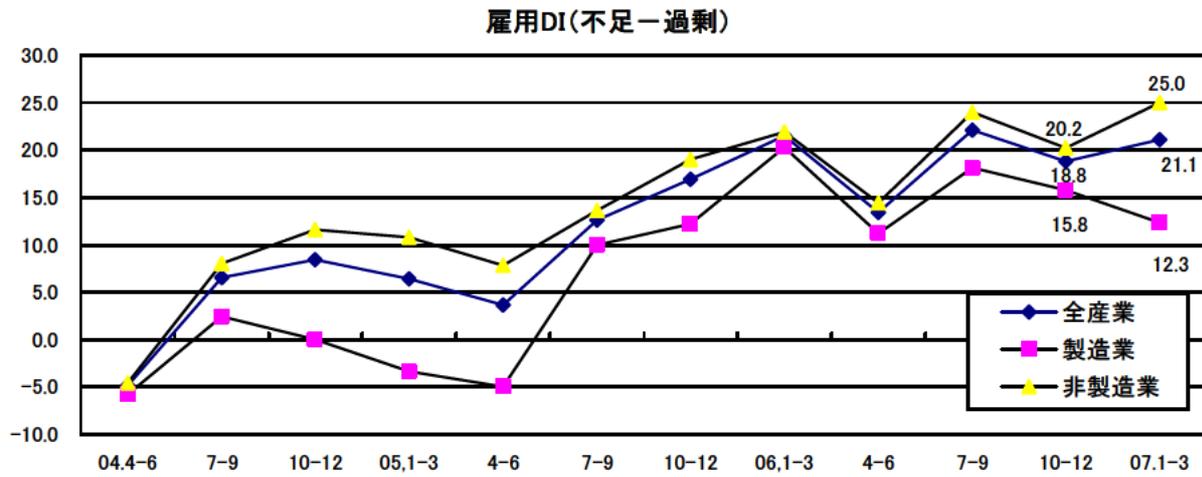
今期の業績DI (利益状況) は全産業でプラス19.5ポイントと前回より7.4ポイント悪化しましたが、「黒字」とする企業の割合が「赤字」とする企業の割合を2003年1-3月の調査から引き続き上回っております。来期の見込み (今期比) は、全産業で「悪化」が「好転」を12.2ポイント上回りました。



業績DI = 今期の水準について「黒字」とする企業の割合から「赤字」とする企業の割合を引いた値

(3) 雇用

雇用DIは全産業でプラス21.1ポイントと前回より2.3ポイント改善し、雇用状態が「不足」とする企業の割合が「過剰」とする企業の割合を上回っています。



雇用DI = 今期の水準について「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値

(4) 要約

今期の県内企業の景況は、景況感DIは6期連続のプラスとなりました。業績DIは製造業で大きく落ち込みがありました引き続きプラスを維持しています。雇用DIは好景気を反映し全産業で、労働力の「不足」感を感じています。新規学卒採用は、高校卒、大学・短大卒ともに2割超の企業が採用を予定しています。

(5) 産業別

全産業 (回答350社)

景況感、業績は悪化。

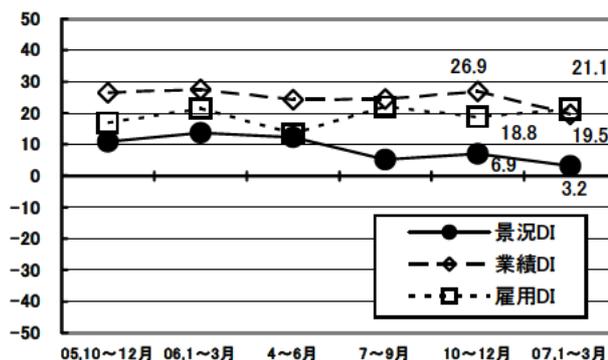
雇用は改善となる。

景況感DI (前期比) は、全産業でプラス 3.2 ポイントとなり、前回より 3.7 ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス 19.5 ポイントとなり、前回より 7.4 ポイント悪化しました。

雇用DIはプラス 21.1 ポイントとなり、前回より 2.3 ポイント改善しました。

全産業の主要DI 推移



建設業 (回答40社)

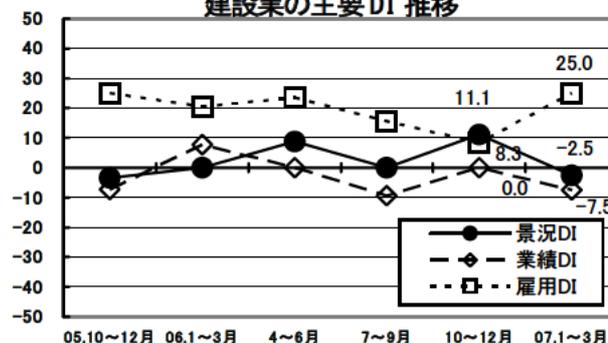
景況感、業績は悪化。マイナスに転じる。

雇用は改善。

景況感DI (前期比) は、建設業でマイナス 2.5 ポイントとなり、前回より 13.6 ポイント悪化しました。また、業績DIもマイナス 7.5 ポイントとなり、前回より 7.5 ポイント悪化しました。

雇用DIはプラス 25.0 ポイントとなり、前回より 16.7 ポイント改善しました。

建設業の主要DI 推移



製造業 (回答106社)

景況感と業績は悪化するもプラスを維持。

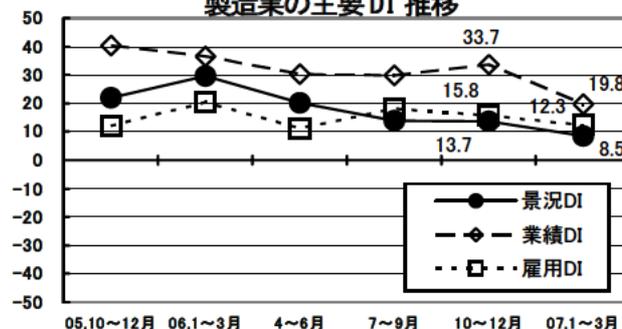
雇用は不足状態が続く。

景況感DI (前期比) は、製造業でプラス 8.5 ポイントとなり、前回より 5.2 ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス 19.8 ポイントとなり、前回より 13.9 ポイント悪化しました。

雇用DIはプラス 12.3 ポイントとなり、前回より 3.5 ポイント悪化しました。

製造業の主要DI 推移



運輸・通信業 (回答24社)

景況感は改善。業績は悪化。

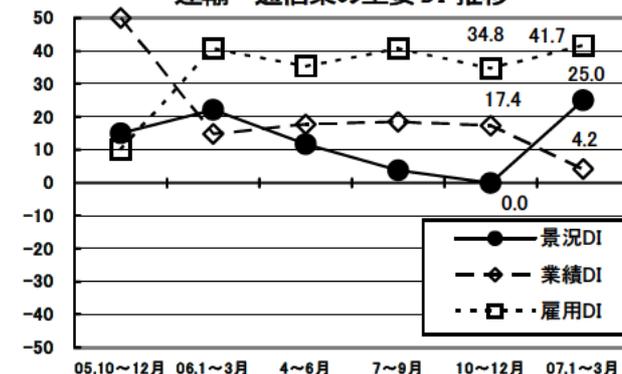
雇用は高水準を維持。

景況感DI (前期比) は、運輸・通信業でプラス 25.0 ポイントとなり、前回より 25.0 ポイント改善しました。

また、業績DIはプラス 4.2 ポイントとなり、前回より 13.2 ポイント悪化しました。

雇用DIはプラス 41.7 ポイントとなり、前回より 6.9 ポイント改善しました。

運輸・通信業の主要DI 推移



卸・小売業 (回答76社)

景況感は悪化し、マイナス状態が続く。

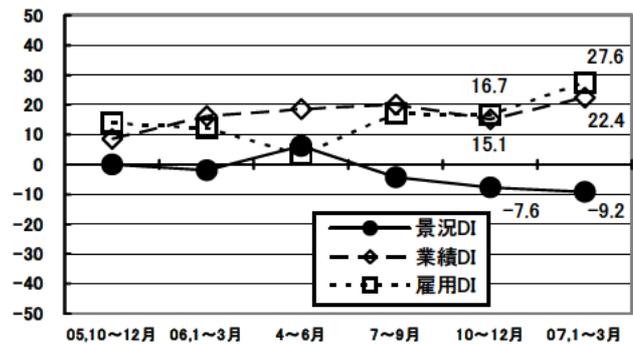
業績、雇用は共に改善。

景況感DI (前期比) は、卸・小売業でマイナス9.2ポイントとなり、前回より1.6ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス22.4ポイントとなり、前回より7.3ポイント改善しました。

雇用DIはプラス27.6ポイントとなり、前回より10.9ポイント改善しました。

卸・小売業の主要DI 推移



金融・保険業 (回答17社)

景況感はプラスを維持。

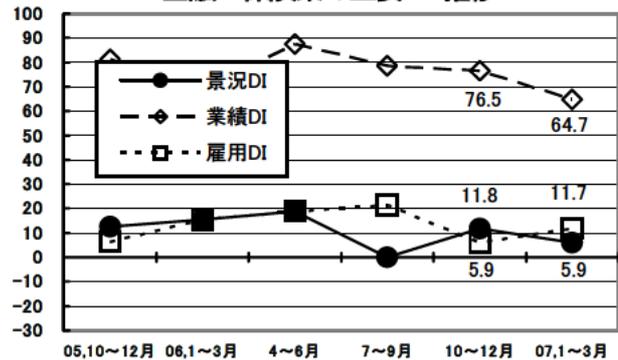
業績は引き続き高水準。雇用は改善。

景況感DI (前期比) は、金融・保険業でプラス5.9ポイントとなり、前回より5.9ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス64.7ポイントとなり、前回より11.8ポイント悪化しました。

雇用DIはプラス11.7ポイントとなり、5.8ポイント改善しました。

金融・保険業の主要DI 推移



サービス業 (回答87社)

景況、業績、雇用すべて悪化するも

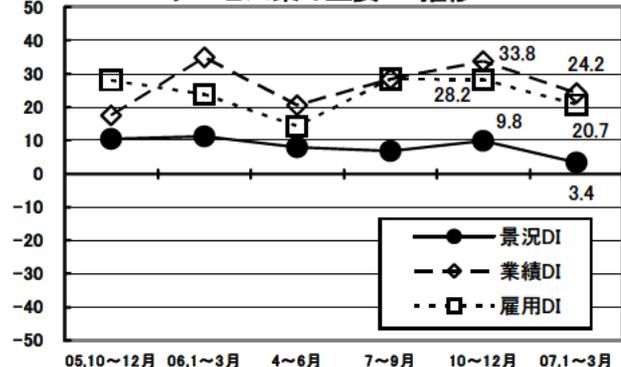
引き続きプラスを維持。

景況感DI (前期比) は、サービス業でプラス3.4ポイントとなり、前回より6.4ポイント悪化しました。

また、業績DIはプラス24.2ポイントとなり、前回より9.6ポイント悪化しました。

雇用DIはプラス20.7ポイントとなり、前回より7.5ポイント悪化しました。

サービス業の主要DI 推移



景況感DI = 前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値

業績DI = 今期の水準について「黒字」とする企業の割合から「赤字」とする企業の割合を引いた値

雇用DI = 今期の水準について「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値

※ 前期=2006年10~12月 今期=2007年1~3月 来期=2007年4~6月

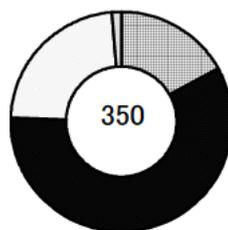
III 生活創造圏別の主要DI

	桑名・員弁	四日市	鈴鹿・亀山	津・久居	松阪・紀勢	伊勢志摩	伊賀	尾鷲	熊野	全体
今期景況感DI	-5.4	9.6	22.9	8.3	8.7	-13.9	-10.0	-16.7	-20.0	3.2
前期	0.0	21.4	25.0	2.2	4.7	5.4	-10.0	-18.2	-50.0	6.9
今期業績DI	16.2	29.8	20.0	23.3	19.5	13.9	16.7	-16.6	-10.0	19.5
前期	44.8	36.0	50.0	24.4	23.2	24.3	-3.3	0.0	-33.3	26.9
今期雇用DI	18.9	16.7	34.3	23.3	17.4	36.1	20.0	0.0	0.0	21.1
前期	31.0	21.3	21.8	22.2	9.3	32.4	10.0	0.0	-50.0	18.8

IV全調査項目の結果詳細

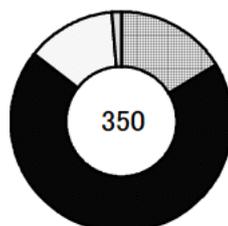
1. 景気

(1) 今期の県内景気については、「良い」16.9%(59社)、「ふつう」58.6%(205社)、「悪い」23.1%(81社)となっています。



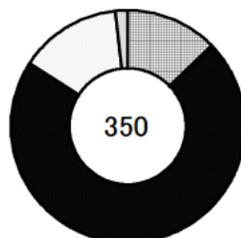
□ 良い	16.9%
■ ふつう	58.6%
□ 悪い	23.1%
□ 無回答	1.4%

(2) 前期と比べた今期の県内景気については、「好転」16.3%(57社)、「不変」69.1%(242社)、「悪化」13.1%(46社)となっています。



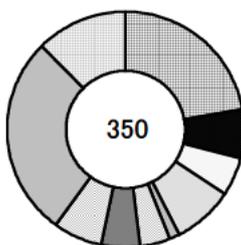
□ 好転	16.3%
■ 不変	69.1%
□ 悪化	13.1%
□ 無回答	1.4%

(3) 今期と比べた来期の県内景気については、「好転」12.9%(45社)、「不変」71.4%(250社)、「悪化」14.0%(49社)となっています。



□ 好転	12.9%
■ 不変	71.4%
□ 悪化	14.0%
□ 無回答	1.7%

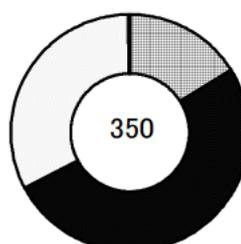
(4) 国内景気の回復時期については、「2008年1月以降」が27.4%(96社)でもっとも多く、次いで「2006年3月以前」が22.3%(78社)、「2006年10～12月」が8.3%(29社)の順となっています。



□ 2006年3月以前	22.3%
■ 2006年4～6月	6.6%
□ 2006年7～9月	5.4%
□ 2006年10～12月	8.3%
□ 2007年1～3月	1.4%
□ 2007年4～6月	4.0%
■ 2007年7～9月	5.4%
□ 2007年10～12月	6.6%
□ 2008年1月以降	27.4%
□ 無回答	12.6%

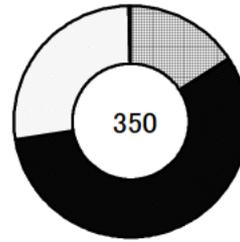
2. 業況

(1) 今期の業況については、「良い」16.0%(56社)、「ふつう」51.1%(179社)、「悪い」32.6%(114社)となっています。



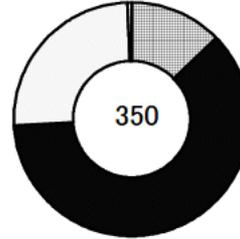
□ 良い	16.0%
■ ふつう	51.1%
□ 悪い	32.6%
□ 無回答	0.3%

(2) 前期と比べた今期の業況については、「好転」15.7% (55社)、「不変」56.9% (199社)、「悪化」27.1% (95社) となっています。



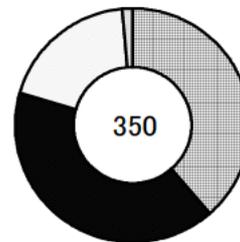
□好転	15.7%
■不変	56.9%
□悪化	27.1%
□無回答	0.3%

(3) 今期と比べた来期の業況見込みについては、「好転」12.9% (45社)、「不変」61.4% (215社)、「悪化」25.1% (88社) となっています。



□好転	12.9%
■不変	61.4%
□悪化	25.1%
□無回答	0.6%

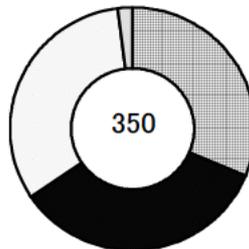
(4) 今期の利益状況については、「黒字」38.6% (135社)、「収支均衡」40.9% (143社)、「赤字」19.1% (67社) となっています。



□黒字	38.6%
■収支均衡	40.9%
□赤字	19.1%
□無回答	1.4%

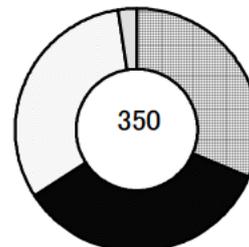
3. 売上高

(1) 売上高の前期比較については、「増加」31.4% (110社)、「不変」34.0% (119社)、「減少」32.6% (114社) となっています。



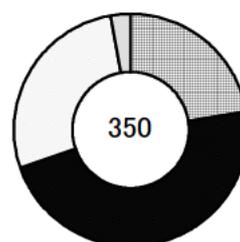
□増加	31.4%
■不変	34.0%
□減少	32.6%
□無回答	2.0%

(2) 売上高の前年同期比較については、「増加」31.4% (110社)、「不変」34.3% (120社)、「減少」31.7% (111社) となっています。



□増加	31.4%
■不変	34.3%
□減少	31.7%
□無回答	2.6%

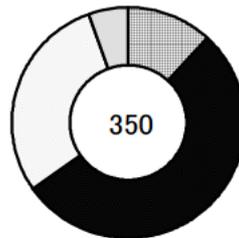
(3) 売上高の来期見込みについては、「増加」22.6% (79社)、「不変」47.1% (165社)、「減少」27.4% (96社) となっています。



□増加	22.6%
■不変	47.1%
□減少	27.4%
□無回答	2.9%

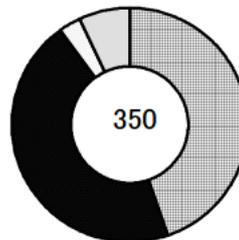
4. 価格

(1) 今期の販売価格・受注単価については、「上昇」12.0% (42社)、「不変」53.1% (186社)、「低下」29.4% (103社) となっています。



■ 上昇	12.0%
■ 不変	53.1%
□ 低下	29.4%
□ 無回答	5.4%

(2) 今期の仕入価格 (原材料・商品) については、「上昇」44.9% (157社)、「不変」45.1% (158社)、「低下」3.1% (11社) となっています。

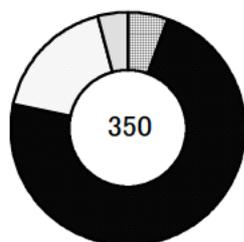


■ 上昇	44.9%
■ 不変	45.1%
□ 低下	3.1%
□ 無回答	6.9%

5. 資金繰り

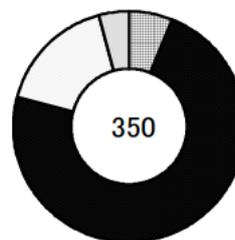
(1)・(2) 資金繰りについては、今期が72.9%、来期が73.1%の企業が「不変」としており、今期は「好転」が5.4% (19社)、「悪化」が17.4% (61社)、来期は「好転」が6.0% (21社)、「悪化」が16.6% (58社) と、今期・来期とも「悪化」が「好転」を上回っています。

今期資金繰り (前期比)



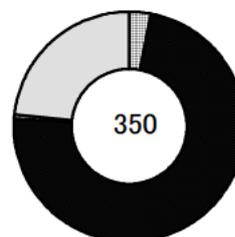
□ 好転	5.4%
■ 不変	72.9%
□ 悪化	17.4%
□ 無回答	4.3%

来期資金繰り (今期比)



□ 好転	6.0%
■ 不変	73.1%
□ 悪化	16.6%
□ 無回答	4.3%

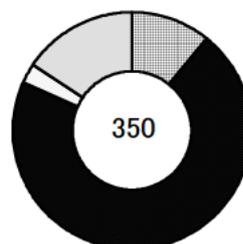
(3) 受取手形の期間は、「長期化」3.1% (11社)、「不変」72.9% (255社)、「短期化」0.6% (2社) となっています。



□ 長期化	3.1%
■ 不変	72.9%
□ 短期化	0.6%
□ 不明	23.4%

6. 製品 (商品)・原材料在庫

現在の製品在庫状況については、「過剰」10.9% (38社)、「適正」70.9% (248社)、「不足」2.9% (10社) となっています。

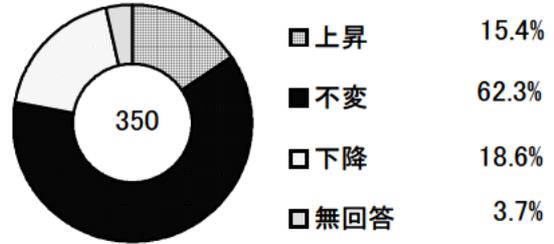


□ 過剰	10.9%
■ 適正	70.9%
□ 不足	2.9%
□ 無回答	15.4%

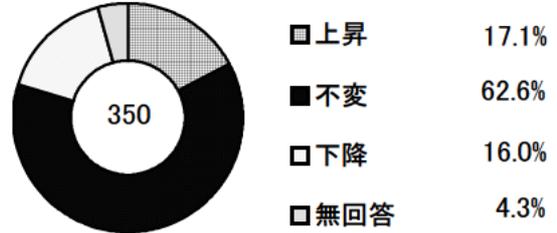
7. 設備投資意欲

〔設備投資意欲〕

(1) 前期と比べた今期の設備投資意欲については、「上昇」15.4% (54社)、「不変」62.3% (218社)、「下降」18.6% (65社) となっています。

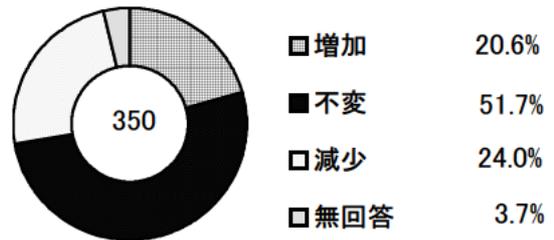


(2) 今期と比べた来期の設備投資意欲は、「上昇」17.1% (60社)、「不変」62.6% (219社)、「下降」16.0% (56社) となっています。



〔設備投資状況〕

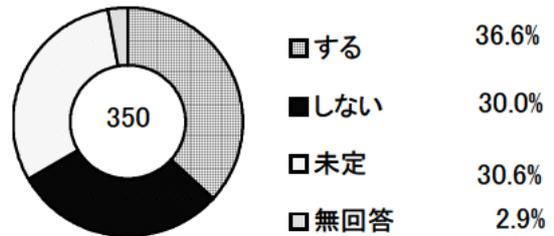
(3) 平成17年度下半期 (2005年10月～2006年3月) と比べた平成18年度下半期 (2006年10月～2007年3月) の設備投資計画額は、「増加」20.6% (72社)、「不変」51.7% (181社)、「減少」24.0% (84社) となっています。



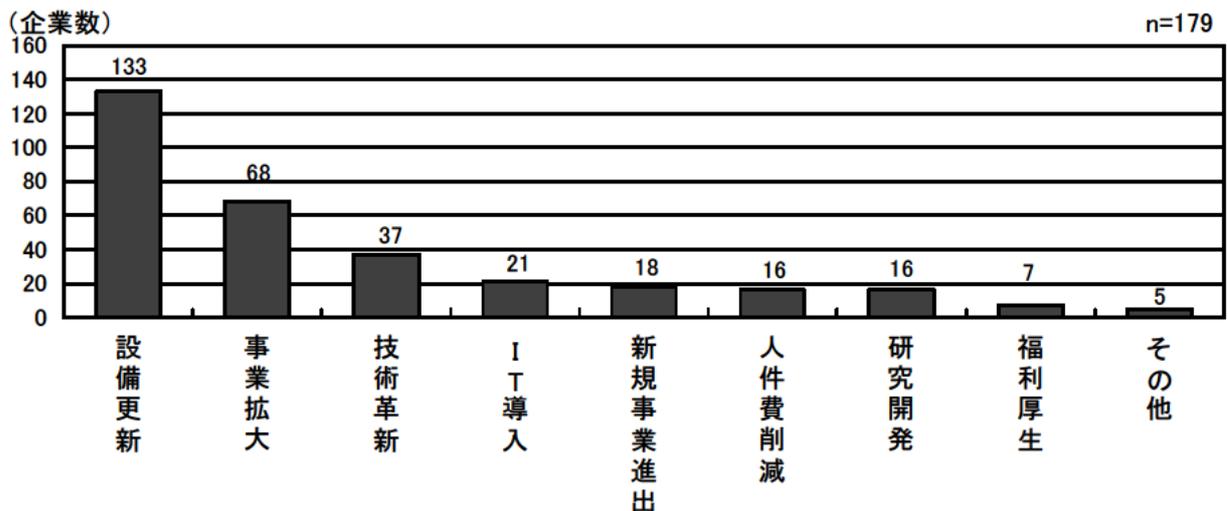
(4) 今期の設備投資予定は、「する」34.6% (121社)、「しない」43.7% (153社)、「未定」19.1% (67社) となっています。



(5) 来期の設備投資予定は、「する」36.6% (128社)、「しない」30.0% (105社)、「未定」30.6% (107社) となっています。

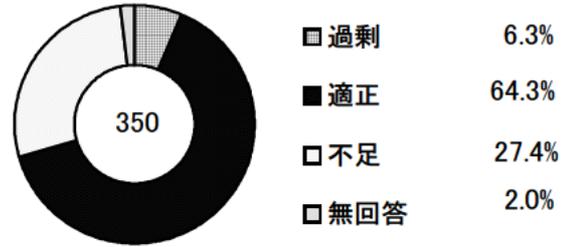


(6) 設備投資の主目的は、「設備更新」74.3% (133社)「事業拡大」38.0% (68社)、「技術革新」20.7% (37社) の順となっています。(複数回答可)

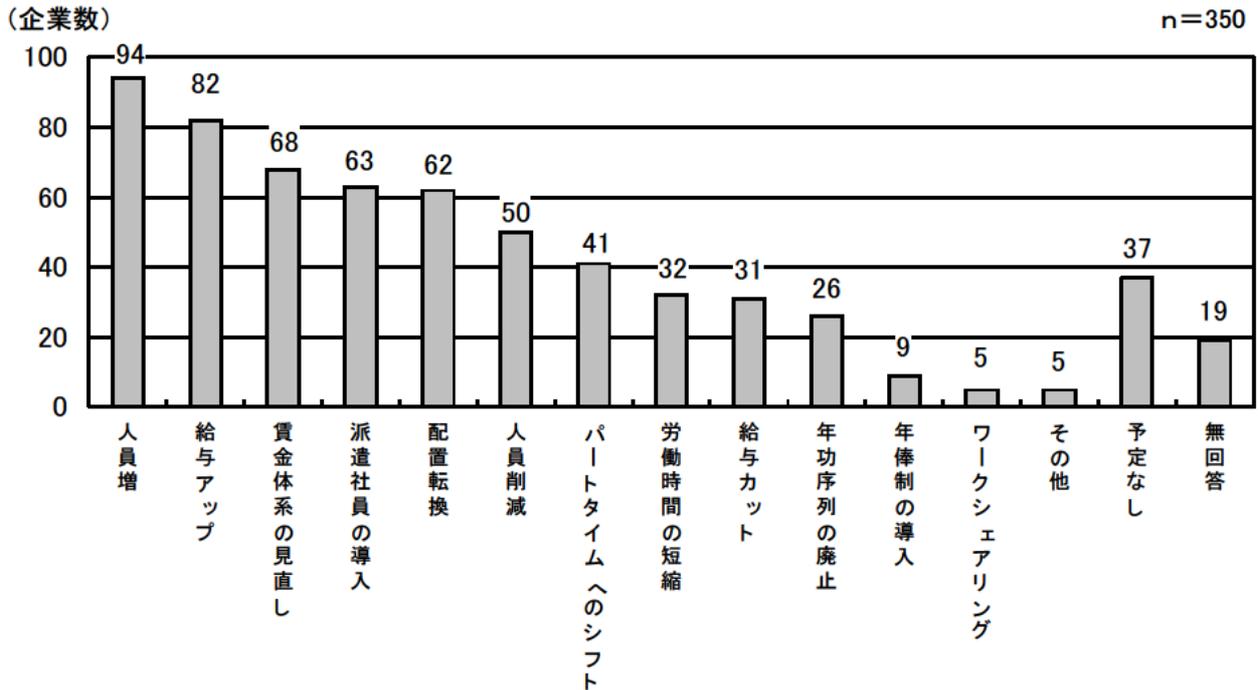


8. 雇用状態

(1) 今期の雇用状態については、「過剰」6.3% (22社)、「適正」64.3% (225社)、「不足」27.4% (96社) となっています。



(2) 過去1年に行った、あるいは行う予定の雇用問題対策は、「人員増」26.9% (94社)、「給与アップ」23.4% (82社)、「賃金体系の見直し」19.4% (68社)、「派遣社員の導入」が18.0% (63社) の順となっています。(複数回答可)

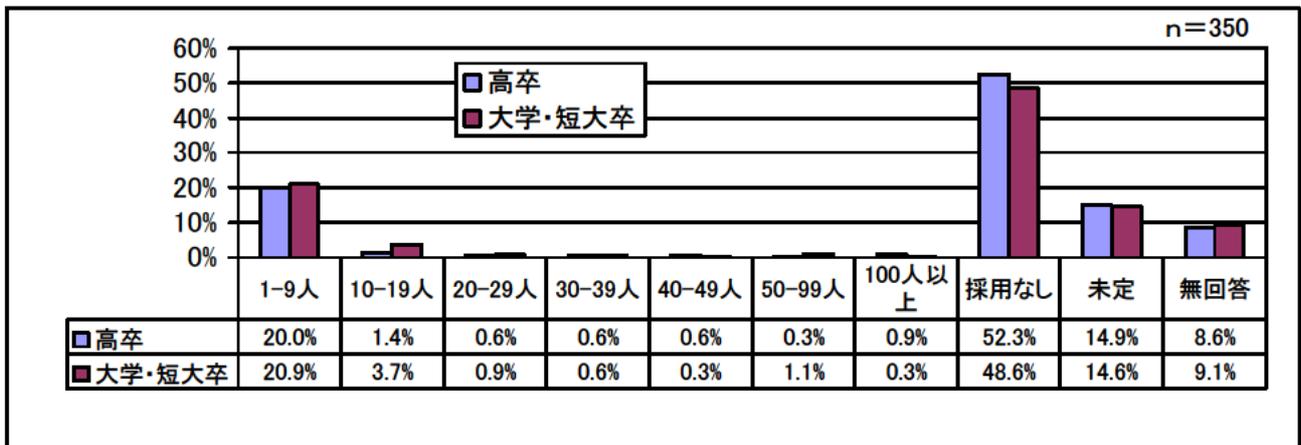


9. 採用

(1) 平成19年度の新規学卒者採用者数

高卒者を新規に採用する企業は24.3% (85社) で採用しない企業は52.3% (183社) でした。採用企業において「1~9人」20.0% (70社)、「10~19人」1.4% (5社) の順になっております。

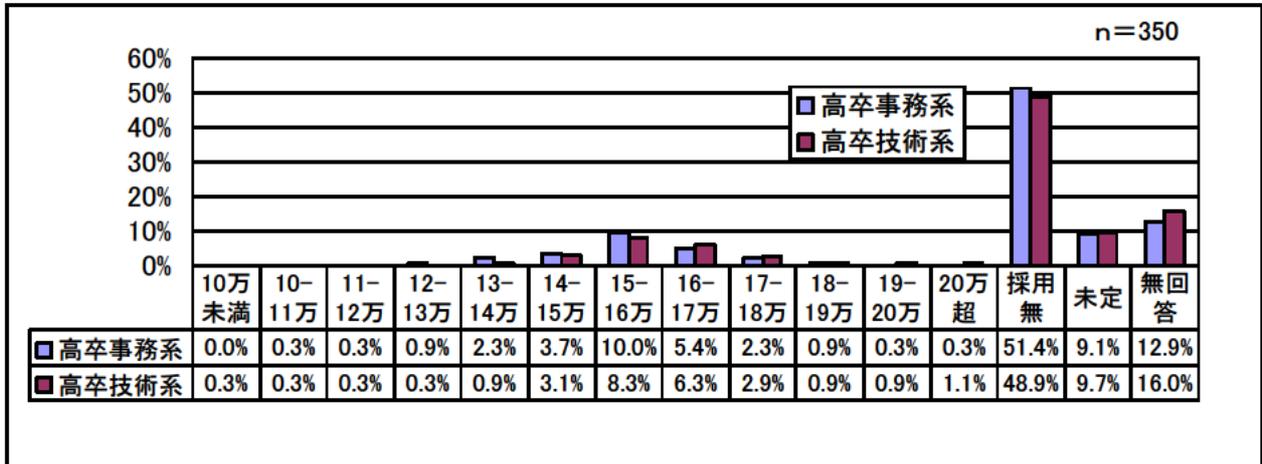
大学・短大卒者を新規に採用する企業は27.7% (97社) で採用しない企業は48.6% (170社) でした。採用企業において「1~9人」20.9% (73社)、「10~19人」3.7% (13社)、「50~99人」1.1% (4社) の順になっております。



(2)平成19年度の新規学卒者初任給

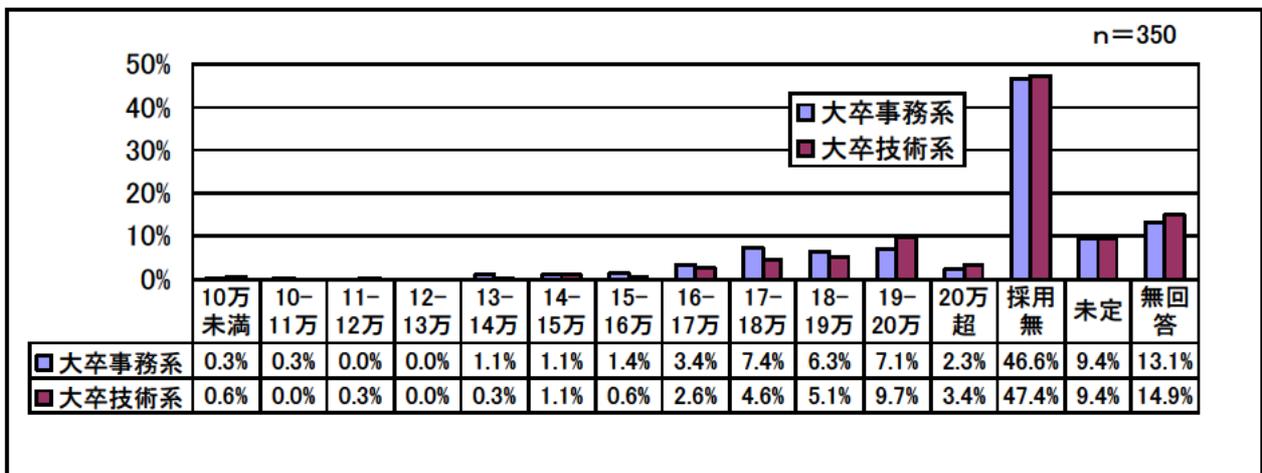
平成19年度の新規学卒者初任給は高卒事務系において、「15-16万円未満」10.0% (35社)、「16-17万円未満」5.4% (19社)、「14-15万円未満」3.7% (13社)の順になっております。

平成19年度の新規学卒者初任給は高卒技術系において、「15-16万円未満」8.3% (29社)、「16-17万円未満」6.3% (22社)、「14-15万円未満」3.1% (11社)の順になっております。



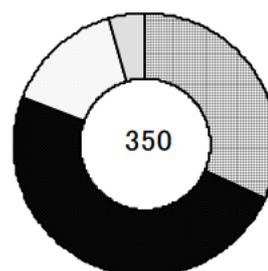
平成19年度の新規学卒者初任給は大卒事務系において、「17-18万円未満」7.4% (26社)、「19-20万円未満」7.1% (25社)、「18-19万円未満」6.3% (22社)の順になっております。

平成19年度の新規学卒者初任給は大卒技術系において、「19-20万円未満」9.7% (34社)、「18-19万円未満」5.1% (18社)、「17-18万円未満」4.6% (16社)の順になっております。



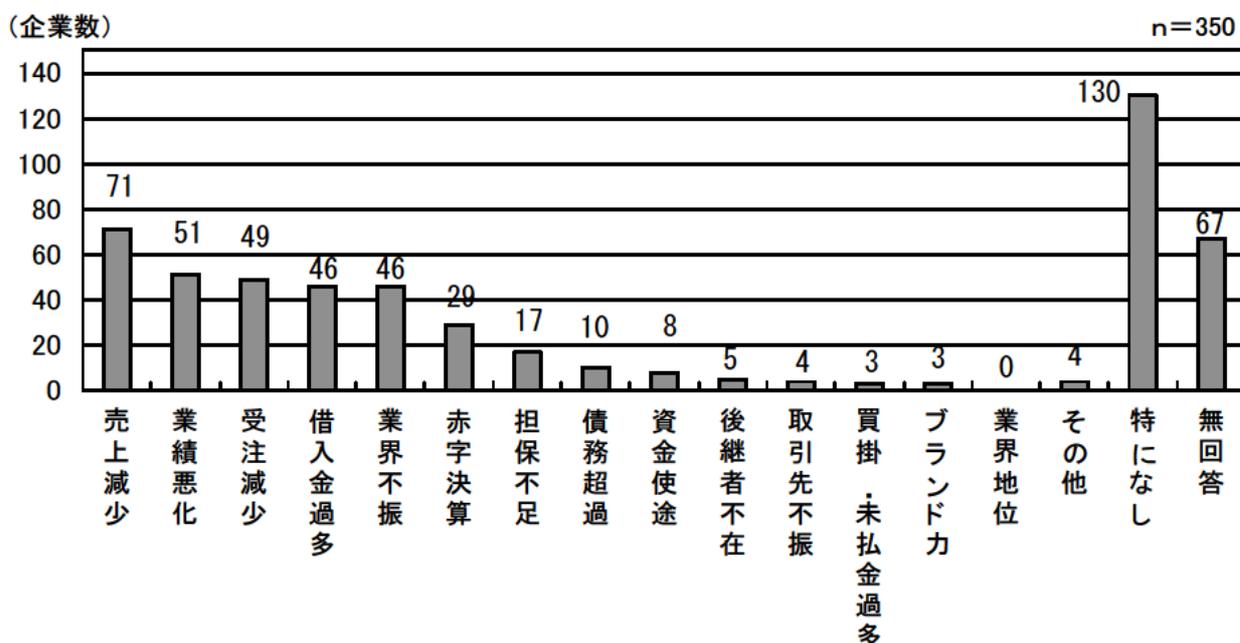
10. 資金調達

(1) 新規の借入を行う必要については、「ある」31.7% (111社)、「ない」49.1% (172社)となっております。



- ある 31.7%
- ない 49.1%
- 分からない 14.6%
- 無回答 4.6%

(2) 借入にあたっての問題については、「売上減少」20.3% (71社)、「業績悪化」14.6% (51社)、「受注減少」14.0% (49社) の順となっています。(複数回答可)



(3) 前期と比べた今期の長期資金借入れ難度は、「容易」9.4% (33社)、「やや容易」6.9% (24社)、「不変」58.6% (205社)、「やや困難」7.7% (27社)、「困難」2.6% (9社) となっています。



(4) 前期と比べた今期の短期資金借入れ難度は、「容易」10.6% (37社)、「やや容易」5.1% (18社)、「不変」58.9% (206社)、「やや困難」7.1% (25社)、「困難」2.6% (9社) となっています。

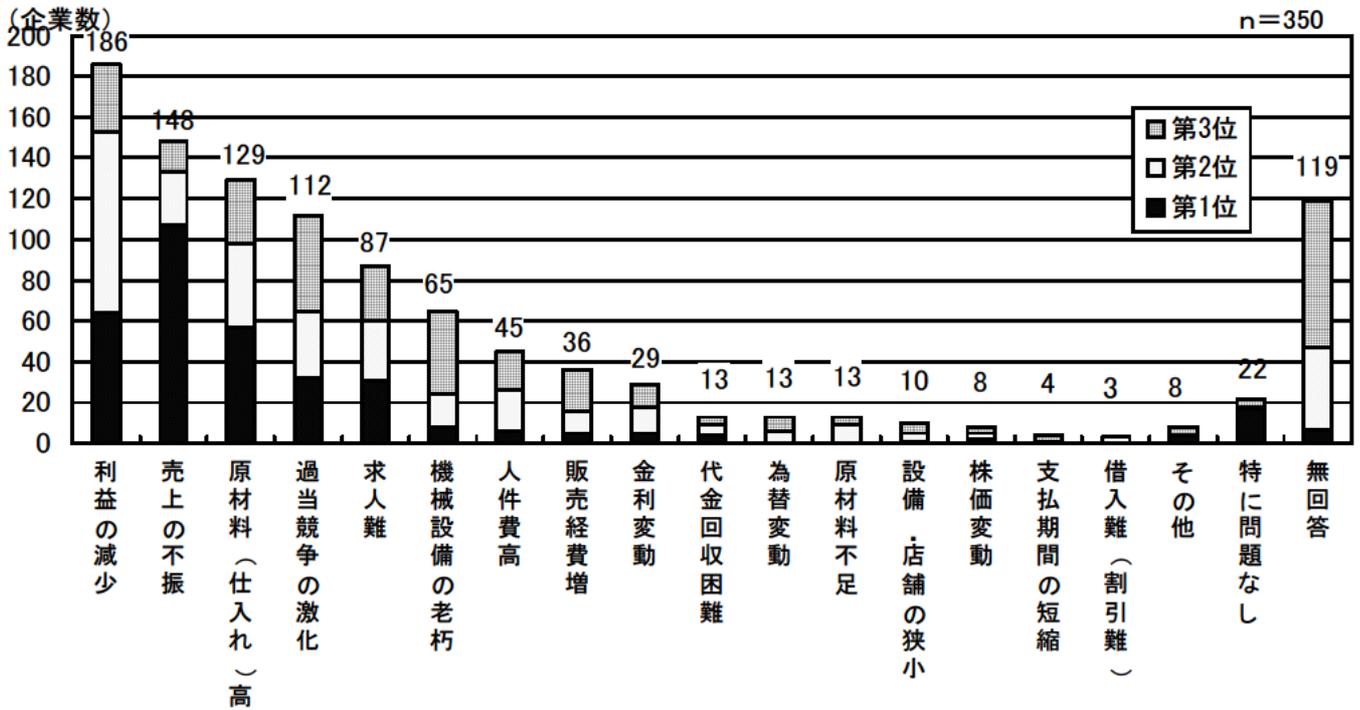


(5) 前期と比べた今期の借入れ金利は、「上昇」36.3% (127社)、「不変」42.9% (150社)、「低下」5.1% (18社) となっています。



1.1. 経営上の問題

(1) 経営上の問題点としては、「利益の減少」53.1% (186社)、「売上の不振」42.3% (148社) 「原材料(仕入れ)高」36.9% (129社)の順となっています。(上位3項目選択)



(2) 効果があると考えられる公共機関が行う企業支援策としては、「減税」58.9% (206社)、「助成制度」34.0% (119社)、「公共事業の増加」25.1% (88社)の順となっています。(複数回答可)

